

## 大学生の親子関係と健康

母子保健研究部 加藤 忠明  
共同研究者 松本 紀子 (第一保育短期大学)  
北原 歌子・山崎 森・井狩 芳子 (和泉短期大学)  
永田 陽子・栄本 和子 (和泉短期大学)  
伊志 嶺美津子 (女子美術短期大学)

要約: 男子大学生488名、女子短大生499名を対象に「親と子の絆」に関する質問紙調査を行なった。自宅通学生に比べアパートや寮からの通学生は、家族関係が良好であると回答した学生が多かったが、出生順位や祖父母との同居など表面的な家庭状況と親子関係の項目とは、ほとんど関連が認められなかった。対象学生の親子関係はおおむね良好であった。女子に比べ男子の大学生では、父や母を「嫌い」、「しつげが厳しい」、「過保護」と思う割合が少なく、「放任主義」と思う割合が比較的多かった。男子学生の愁訴は女子学生と比べて、「肩こりがある」、「太り気味である」、「風邪をひきやすい」、「便秘をしやすい」、「熱が出やすい」などが少なく、「骨折をしたことがある」、「やせ気味である」など、また「特に問題はない」が多かった。男子学生の様々な愁訴項目は、親子関係項目と密接に関連していたが、「家族関係が良好でない」との関連は余りみられなかった。

見出し語: 親子関係、親と子の絆、健康、不定愁訴

### Parent-Child Relationship and Health about College Students

Tadaaki KATO, Michiko MATSUMOTO, Utako KITAHARA,  
Shigeru YAMASAKI, Yosiko IKARI, Youko NAGATA,  
Kazuko EIMOTO, and Mitsuko ISHIMINE

Summary: The investigation into questionnaire about Parent-Child Bond was studied. The objects were 488 male & 499 female students of colleges. Better family relationships were reported by the students who went to school from apartment or dormitory compared with one's house. But the relationships could not be found between parent-child bond and outward appearance of family, e.g., birth order or living in the same house with grandmother/grandfather. The complaint items of male students about health had relationships with many items of parent-child bond, but had not so much correlation with "not good relationships with family".

Key Words : parent-child relationship, parent-child bond, health, and complaint about health

## I、はじめに

女子短大生の親と子の絆については別の報告で<sup>1,2)</sup>、また、その絆と健康との関連に関しては前回報告したので<sup>3)</sup>、それらと比較しながら今回は主として、男子大学生の親子関係と健康について分析しようと試みた。

卒業後、女子短大生の多くは保育所や幼稚園で保育者となり、また男子大学生の多くは一般の会社員や公務員となる人達である。将来は親となり自分の子どもを育てる青年男女の親子関係がどの様に形成されてきたか、また、それと健康との関連などを分析することにより現代の親と子の絆について考えてみたい。

## II、対象と方法

福岡県にある九州産業大学工学部と商学部の男子学生322名(1年生)、第一経済大学の男子学生166名(2年生)を対象に1992年6月に(以下A群と略す)、また同県にある第一保育短期大学幼児教育科の女子学生499名(1年生250名、2年生249名)を対象に1991年10月に(以下B群)、前回報告(神奈川県にある和泉短期大学児童福祉科の女子学生、以下C群)と同様の「親と子の絆」に関する質問紙調査を行い、全員より回答を得た。

## III、結果と考察

### 1、家庭、生活上の背景

A群、B群とも同年代の人口構成<sup>4)</sup>と比べて、兄弟数はやや多く、出生順位はやや早い傾向が認められたが、C群ほど明確ではなかった。祖父母との同居の有無では国勢調査<sup>5)</sup>とほぼ同様の割合であった。

自宅通学者の割合はA群41.5%、B群48.2%であり、C群78.6%に比べて少なく、A群はアパート(38.8%)、B群は寮(46.0%)からの通学者が比較的多かった。

学生の自宅は、A群、B群とも半数以上が住宅地域にあり、次に農山村・漁村地域が多かった。A群の69.8%、B群の91.4%は九州地方に自宅があり、次に中国、近畿、四国地方が多かった。

以上の項目の中で、自宅通学生に比べアパートや寮からの通学生は、A群、B群とも、家族関係ことに母親との関係が良好であると回答した学生が多かった( $p < 0.001$ )。しかし、その他の家庭・生活上の背景と親子関係の項目とは、ほとんど関連が認められなかった。親元を離れて親のありがたみを再認識する学生は多いので

あろうが、その他の表面的な家庭状況が直接、親子の絆に影響することはほとんどないと考えられる。

### 2、親、家族との関係

A群、B群の学生の親との関係を表1に示す。「親の愛情を受けられなかった」、「もっと大事にしてほしかった」とよく思う学生は1~2%と少なく、ことにA群の多くの学生は親子関係が良好であった。B群、C群に比べてA群の学生は、父や母を「嫌い」、「しつけが厳しい」、「過保護」と思う割合が少なく、「放任主義」と思う割合が比較的多かった。女子に比べ男子の大学生に対して親は、より信頼またはあきらめており、心配事は比較的に少なくなっている可能性が考えられる。

「親と子の絆」を大切にしたいと思う学生はA群89.7%、B群94.3%と多かった。しかし、それは「愛情のつながり」であると回答した割合は、B群77.5%に対し、A群では49.5%と比較的低く、「血のつながり」33.3%、「生活上のつながり」10.7%との回答が比較的多かった。女子学生に比べて男子学生は、親からよく育ててもらっていると感じているが、親子関係をより冷静にさめた目でみているようであった。親ばなれ、子ばなれがより進んでいると考えられる。

A群、B群の家族(父、母、兄弟、祖父母、家族全員)との関係は、「まあ良好」も含めると、88%以上の学生が「良好である」と回答していた。

A群、B群の、父母または家族全員との関係の良好度と、「もっとよく育ててほしかった」との相関係数 $r$ は $-0.15 \sim -0.28$ 、「親の愛情を受けられなかった」との $r$ は $-0.20 \sim -0.39$ 、「もっと大事にしてほしかった」との $r$ は $-0.18 \sim -0.35$ 、「父親を嫌い」との $r$ は $-0.21 \sim -0.52$ 、「母親を嫌い」との $r$ は $-0.18 \sim -0.44$ であり、いずれも有意に( $p < 0.01$ )関連していた。男女とも親子の絆の形成が不十分な場合に、以上のような気持ちを学生は親に対してもつようになると考えられる。

しかし、A群、B群とも、家族関係の良好度と、父または母の「しつけが厳しい」、「過保護」、「放任主義」との $r$ は、 $0.00 \sim -0.12$ と低かった。男子、女子ともに、しつけが厳しかったり、過保護だったり、放任主義かどうかは、度を超えなければ親子関係に重大な影響を与えないと考えられる。

### 3、健康に関する愁訴との関係

学生自身の健康問題について当てはまる愁訴項目に複数回答させた(表2)。A群とB群とで大きな差が認められたが、B群の結果は、C群とほぼ同様であり、おお

むね平成元年度国民生活基礎調査<sup>1)</sup>の結果と同様であった。A群の男子学生は、B、C群の女子学生と比べて、「肩こりがある」、「太り気味である」、「風邪をひきやすい」、「便秘をしやすい」、「熱が出やすい」などが少なく、「骨折をしたことがある」、「やせ気味である」など、また「特に問題はない」が多かった。

#### ①A群の愁訴項目

A群で「肩こりがある」学生は、「母親を嫌い」、「母、祖父、祖母、家族全員との関係が良好でない」と回答する割合が有意に高かった ( $p < 0.05 \sim 0.01$ )。肩こりがある男子学生の家族関係に関して、今後検討していく必要がある。しかし、A群で「怒りっぽい」は、「母との関係が良好でない」以外の家族関係の項目と関連 ( $p < 0.05$ ) は認められず、後記の女子学生と異なっていた。

その他の様々な愁訴項目は、親子関係項目と関連していたが、「家族関係が良好でない」との関連はほとんどみられなかった。「ゼーゼーいいやすい」学生は、「今の生活に満足していない」、「もっとよく育ててほしかった」、「親の愛情を受けられなかった」、「もっと大事にしてほしかった」、「父のしつけはきびしい」、「母は過保護」などの回答が多かった ( $p < 0.05 \sim 0.001$ )。喘息児に対する心理面での配慮、家族関係の調整などが望まれる。

「便秘しやすい」学生は、「今の生活に満足していない」、「もっと良く育ててほしかった」、「父のしつけはきびしい」、「母は過保護」などの回答が多く ( $p < 0.05 \sim 0.01$ )、「腹痛がある」学生も、「もっとよく育ててほしかった」、「父のしつけはきびしい」、「父、母は過保護」などが多かった ( $p < 0.001$ )。便秘や腹痛を有する男子学生は、軽度の過敏性大腸(精神的ストレスが原因で下痢、便秘、腹痛などが生じる病気)である学生が多く含まれていると考えられる。

「食欲がない」学生は、「今の生活に満足していない」、「父のしつけはきびしい」、「父、母は過保護」などの回答が多かった ( $p < 0.05 \sim 0.001$ )。また、「頭が時々痛い」、「めまいをおこしやすい」学生は、「今の生活に満足していない」 ( $p < 0.01 \sim 0.001$ )、「頭が時々痛い」、「鼻血を出しやすい」学生は、「もっとよく育ててほしかった」 ( $p < 0.01 \sim 0.001$ )、「めまいをおこしやすい」、「自分の体臭が気になる」学生は、「親の愛情を受けられなかった」 ( $p < 0.05 \sim 0.01$ )、「風邪をひきやすい」、「自分の体臭が気になる」学生は、「母は過保護」 ( $p < 0.05 \sim 0.01$ ) などの回答が多かった。A群ではこれらの愁訴と、親子の生活上の種々の不満とが密接に関連しているようであったが、他の大

学の男子学生についても、今後検討していきたい。

逆に「自分の健康について特に問題はない」学生は、「今の生活に満足している」、「よく育ててもらった」、「親の愛情を受けられた」、「母は過保護でない」などの回答が多かった ( $p < 0.05 \sim 0.01$ )。

#### ②B群の愁訴項目

愁訴項目と親子関係項目の関連でも、B群は、C群同様の結果が多かった。B群で「怒りっぽい」学生は、「もっとよく育ててほしかった」、「父、母を嫌い」、「父は過保護」などの回答が多かった ( $p < 0.05 \sim 0.01$ )。これらは学生自身の性格による回答とも考えられるが、怒りっぽい女子学生に対しては、親子関係や家族関係の調整が望まれる。また「腹痛がある」学生は、「もっとよく育ててほしかった」、「父との関係が良好でない」などが多く ( $p < 0.01$ )、C群と同様の結果であった。

その他、「けがをしやすい」学生は、「親の愛情を受けられなかった」、「母を嫌い」、「母のしつけはきびしい」、「父、母は過保護」などの回答 ( $p < 0.05 \sim 0.001$ )、「熱が出やすい」学生は「もっとよく育ててほしかった」、「もっと大事にしてほしかった」などの回答 ( $p < 0.05 \sim 0.001$ )、「ゼーゼーいいやすい」学生は、「もっと大事にしてほしかった」、「父は過保護」などの回答が多かった ( $p < 0.05 \sim 0.001$ )。これらの愁訴をもつ学生の家族関係は、必ずしも悪くはなかったが、けがや病気をしやすい女子への配慮は大切であろう。

#### ③愁訴数

「特に問題はない」以外の愁訴項目総数は、学生一人当たりA群 $2.37 \pm 2.13$ 個、B群 $3.41 \pm 2.41$ 個であり、A群に少なかった ( $p < 0.001$ )。A群、B群とも家族関係が良好であると回答した学生ほど、愁訴数が少ない傾向は認められたが、C群ほど明確ではなかった。

#### 文 献

- 1) 北原歌子、加藤忠明、他：親と子の絆—学際的アプローチ。和泉短期大学研究紀要第12号：97～124、1990。
- 2) 松本紀子、加藤忠明、他：親と子の絆に関する研究。第一保育短期大学研究紀要第9号：125～145、1992。
- 3) 加藤忠明、大西晴子、他：女子短大生の親子関係と健康。日本総合愛育研究所紀要第27集：115～118、1990。
- 4) 厚生省統計情報部：昭和45年度人口動態統計。
- 5) 総務庁統計局：昭和60年国勢調査報告。
- 6) 厚生省統計情報部：平成元年度国民生活基礎調査。

表1 親との関係

質問内容	対象	回答数	よくある %	時々ある %	余りない %	全くない %
親からもっとよく育ててほしかったと思う	A群	485	2.1	16.7	43.7	37.5
	B群	497	4.6	22.5	38.4	34.4
親の愛情を受けられなかったと思う	A	485	2.9	9.5	39.6	48.0
	B	498	1.4	14.1	32.5	52.0
もっと大事にしてほしかったと思う	A	485	0.8	5.6	38.8	54.8
	B	498	2.2	9.4	37.6	50.8
自分の父親を嫌いだと思ったことがある	A	485	9.1	30.5	36.5	23.9
	B	495	12.5	36.2	30.9	20.4
自分の母親を嫌いだと思ったことがある	A	484	4.8	30.2	43.6	21.5
	B	498	6.0	32.3	42.6	19.1
自分の父親の「しつけ」は厳しいと思った	A	485	15.9	20.6	35.3	28.2
	B	493	19.1	20.9	36.1	23.9
自分の母親の「しつけ」は厳しいと思った	A	484	11.4	27.1	39.0	22.5
	B	498	16.3	32.7	37.3	13.7
自分の父親を「過保護」だと思った	A	485	4.9	13.4	36.5	45.2
	B	494	12.6	21.7	35.4	30.4
自分の母親を「過保護」だと思った	A	484	7.9	18.2	38.4	35.5
	B	498	9.0	22.9	38.4	29.7
自分の父親を「放任主義」だと思った	A	485	13.0	21.2	38.8	27.0
	B	492	7.3	16.1	35.2	41.5
自分の母親を「放任主義」だと思った	A	483	6.2	15.9	44.7	33.1
	B	498	6.4	14.3	36.5	42.8

表2、学生の健康問題

健康問題	回答学生数 (%)	
	A群	B群
1、疲れやすい	118(24.6)	145(29.2)
2、骨折をしたことがある	106(22.1)	63(12.7)
3、やせ気味である	88(18.3)	14(2.8)
4、肩こりがある	82(17.1)	176(35.5)
5、下痢をしやすい	80(16.7)	57(11.5)
6、虫歯が多い	73(15.2)	89(17.9)
7、おなかが時々痛い	71(14.8)	102(20.6)
8、太り気味である	61(12.7)	110(22.2)
9、頭が時々痛い	60(12.5)	90(18.1)
10、風邪をひきやすい	58(12.1)	149(30.0)
11、怒りっぽい	48(10.0)	62(12.5)
12、眠りが浅い	46(9.6)	37(7.5)
13、めまいをおこしやすい	39(8.1)	56(11.3)
14、腹痛がある	33(6.9)	40(8.1)
15、ゼーゼーいやすい	26(5.4)	26(5.2)
16、鼻血を出しやすい	25(5.2)	25(5.0)
17、けがをしやすい	20(4.2)	39(7.9)
18、学校を休むことが多い	20(4.2)	27(5.4)
19、便秘をしやすい	17(3.5)	168(33.9)
20、自分の体臭が気になる	15(3.1)	3(0.6)
21、湿疹が多い	11(2.3)	20(4.0)
22、食欲がない	11(2.3)	10(2.0)
23、口の中にカガキやすい	10(2.1)	32(6.5)
24、熱が出やすい	6(1.3)	27(5.4)
25、特に問題はない	125(26.0)	39(7.9)